



小林正和の時代—ファイバーアート—
KOBAYASHI Masakazu The Na
 and His Con
Beyond Fiber Art

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

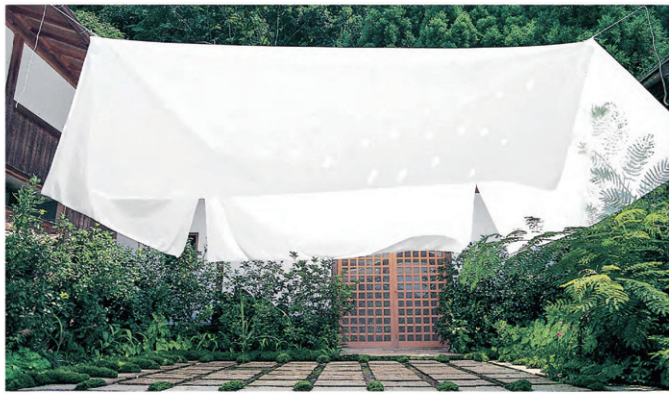
小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館

小林正和
 1928年
 京都府京都市
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館
 京都市立近代美術館



小林正和
 NODATE - ANDGALLERY - 95
 1995年 ナイロン布
 400.0×360.0×200.0 cm
 個人蔵

Kobayashi Masakazu
 NODATE - ANDGALLERY - 95
 1995 nylon cloth
 400.0×360.0×200.0 cm
 Private Collection

Kobayashi Masakazu (1944-2004) pioneered this field in Japan; he first studied lacquerware at Kyoto City University of Fine Arts (later Kyoto City University of Arts) but it was "Encounter with a Single Thread", made while working at Kawashima Textiles Company, that spearheaded a series of works in which he dangled, stretched and unravelled yarn to create three-dimensional pieces. Then, following success at the 6th International Tapestry Biennial, he exhibited at the International Textile Triennial (Łódź, Poland), at the International Textile Competition (Kyoto) and elsewhere, gaining a high reputation overseas. Kobayashi, who believed that textiles made up of fibers "are intimately related to human beings", always sought to create spatial connections in his work, and eventually went on to produce outdoor installations.

In 1981, while teaching at Seian Women's College (later Seian College of Art and Design) and at Okayama Prefectural University, Kobayashi opened Japan's first dedicated gallery of fiber art where he held successive exhibitions and events that were a source of inspiration and a huge influence on younger artists.

This exhibition in 2024, marking the 80th anniversary of Masakazu Kobayashi's birth and 20 years since of his death, is the first retrospective of his art, presenting a total of 100 or so exhibits: it includes about 80 of Kobayashi's major works and related materials, as well as pieces by fellow artists, who worked alongside him. We would like to take this opportunity to look back at the fiber art movement that developed in Kyoto in the 1970s, '80s and '90s, to reflect on Kobayashi's activity here and its significance, as well as on his international standing and the future trajectory of fiber art.

Exhibition Structure and Artists

- Introduction Encounters with Thread
 - In Kawashima Textiles Company
 Kobayashi Masakazu, Murata Hirozo, Mukai Ryokichi
- 1 Discovering Thread, the Birth of Fiber Art
 - Experimentation in Lausanne and Łódź
 Kobayashi Masakazu, Onagi Yoichi, Sakuma Michiko, Kubota Shigo, Kobayashi Naomi
- 2 Thread and Space, the Expansion of Fiber Art
 - Kyoto and the Textile Magicians
 Kobayashi Masakazu, Kusama Tetsuo, Kumai Kyoko, Mitsuhashi Jun, Ogi Chika, Shindo Hiroyuki, Tomita Jun, Tanaka Chiyoko, Kobayashi Naomi
- 3 Connection through Thread, Development of Fiber Art
 - "Gallery" and Design Works
 Kobayashi Masakazu
- 4 Thread, and Beyond Fiber Art
 Kobayashi Masakazu, Mitsuhashi Jun, Toyazaki Mitsuo, Noda Suzumi, Shimada Kiyonori

2024.1.6(土) - 3.10(日)
京都国立近代美術館
 [興福公園内]

January 6 - March 10, 2024
 National Museum of Modern Art, Kyoto
 Contemporary Art Series



関連イベント | 観覧料

講演会
 「小林正和とその時代—ファイバーアート、その向こうへ」
 講師：池田祐子(当館副館長・学芸課長)
 日時：1月6日(土)14:00-15:30
 会場：京都国立近代美術館1階講堂

ラウンドテーブル「小林正和とその時代」
 第1回 1月20日(土)
 「日本のファイバーアートと世界への挑戦—ローザンヌ、ウッチ、京都」
 登壇者：小名木陽一、草間蒔雄、久保田繁雄、熊井恭子
 モデレーター：池田祐子

第2回 2月3日(土)
 「自然とファイバーアート—(テキスタイル・マジシャン)の周辺」
 登壇者：小林尚美、新道弘之、田中千世子、富田潤
 モデレーター：宮川智美(当館研究員)

第3回 2月17日(土)
 「メンターとしての小林正和」
 登壇者：扇千花、島田清徳、戸矢崎満雄、野田涼美
 モデレーター：福富幸(岡山県立美術館学芸課長)

第4回 3月9日(土)
 「世界的小林正和、そして日本のファイバーアート」
 登壇者：レスリー・ミラー (University for the Creative Arts, Textile Culture 名誉教授)、川嶋啓子 (Office G 主宰 / アートコーディネーター)
 モデレーター：池田祐子
 ※この回のみ、始めにレスリー・ミラー氏によるレクチャーがあります。

各回ともに
 時間：14:00-16:00
 会場：京都国立近代美術館1階講堂

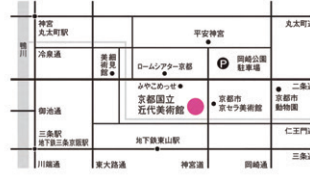
※講演会、ラウンドテーブルともに、先着80名、聴講無料、先着順
 ※お申し込みに関する詳細・最新情報やこの他のイベントについては、当館ホームページにてご案内します

一般1,200円(1,000円)、大学生500円(400円)
 ※()内は前売と20名以上の団体および夜間割引(金曜日18時以降)
 ※高校生以下、母子・父子家庭の世帯員の方、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料(入館の際に証明できるものを提示ください)
 ※本料金をコレクション展も取戻いただけます
 ※前売券は2月11日(金)~1月5日(金)までの限定販売
 ※オンラインチケットは当館HPよりお問い合わせいただけます。

京都国立近代美術館 [興福公園内]
 The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎門勝寺町
 お問い合わせ：075-761-4111 <https://www.momak.go.jp/>

【アクセス】
 ○京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車徒歩約5分、「東山二条・岡崎公園」下車徒歩約10分
 ○地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分
 ○当館には駐車場がございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。*岡崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられますので駐車券をお持ちの上お越しください。



1960年代以降、欧米において従来のテキスタイルの概念を超えるような作品群が数多く登場しました。伝統的な技法を踏まえつつも、天然・合成繊維のみならず、金属や鉱物など様々な素材を取り込み、平面から立体へ、そして空間へと展開した作品群は、ファイバーアートと呼ばれる新たな潮流は、とりわけ1962年から1975年までスイスのローザンヌで開催された国際タペストリー・ビエンナーレを中心に世界へと波及していきました。

日本におけるこの領域のパイオニアである小林正和(1944-2004)は、京都市立美術大学(後の京都市立芸術大学)で漆工を学んだものの、川島織物産の「一本の糸との出会い」を起点に、糸を「垂らし」「張り」「綴め」集積させた立体造形作品を発表します。そして第6回国際タペストリー・ビエンナーレへの入選を皮切りに、国際テキスタイルトリエンナーレ(ウッチェ・ポーランド)や国際テキスタイルコンペティション(京都)などの活躍を通して、国際的に高く評価されるようになりました。糸を含む「ファイバー」は人間と密接に結びついている」と考える小林の作品は、常に空間と関係を切り結ぶことを志向し、最終的には戸外でのインスタレーションへと展開していきます。

また小林は、成安女子短期大学(後の成安造形短期大学)そして岡山県立大学で教える傍ら、1981年には国内で初めてのファイバーアート専門ギャラリーを開設し、そこでの展覧会活動などを通じて、多くの後進に大きな刺激と影響を与え続けました。

2024年に生誕80年・没後20年をむかえる小林正和の初めての回顧展として開催される本展では、小林の代表作や関連資料約80点に、彼と歩みをともにした作家たちの作品を加えた約100点を紹介します。そうすることで、1970年代から90年代にかけて京都に発したファイバーアートの動向を振り返り、そこでの小林の活動とその意義、さらには国際的な位置づけについて、そして今後のファイバーアートの展開について改めて考える機会にしたいと考えます。

「展覧会構成と出品作家」

序 糸との出会い―川島織物時代

小林正和、村田博三、向井良吉

1 糸の発見、ファイバーアートの誕生―ローザンヌとウッチェでの試み
小林正和、小名木陽一、佐久間美智子、久保田繁雄、小林尚美

2 糸と空間、ファイバーアートの拡張―京都とテキスタイル・マジシャン
小林正和、草間品雄、熊井恭子、三橋達、扇千花、新道弘之、富田潤、田中千世子、小林尚美

3 糸の繋がり、ファイバーアートの展開―ギャラリー・ギャラリーとデザイン・ワーク
小林正和

4 糸、そしてファイバーアートの向こうへ

小林正和、三橋達、戸矢崎満雄、野田涼美、島田清徳

小林正和
W3
1976
synthetic fiber
300.0 x 180.0 x 50.0 cm
The National Museum of Modern Art, Kyoto



小林正和とその時代―ファイバーアート、その向こうへ

開館60周年記念

小林正和
MIZUOTO-99
1998年
ryon, watanabe seed
size variable
Private Collection
個人蔵



開館時間 10時~18時(金曜日は20時まで ※入館は閉館の30分前まで)
休館日 月曜日(ただし1月8日と2月12日は開館)、1月9日(火)、2月13日(火)
主催 京都国立近代美術館

小林正和
HANAWATO WR-99
1999年
絹、アルミニウム
105.0 x 210.0 x 10.0 cm
The National Museum of Modern Art, Kyoto

小林正和
KAZAOTO-87
1987年
竹、木、絹糸
900.0 x 900.0 x 135.0 cm (※V型架)

Kobayashi Masakazu
KAZAOTO-87
1987
bamboo, wood, silk yarn
900.0 x 900.0 x 135.0 cm (size variable)
The National Museum of Art, Osaka

